大学選手権四連覇を支えた学生スタッフチーム、もう一方の主役。

「今回の勝利は〝つながり〟の結果。V4はV5の始まりです」。去る1月13日、国立競技場で行われた全国大学ラグビーフットボール選手権大会決勝戦にて勝利をおさめ、前人未到の4連覇を達成した数時間後、帝京大学ラグビー部の岩出雅之監督はこうスピーチしました。主要選手が毎年変わる学生ラグビーにおいて大切なのは、モチベーションと技術を先輩から後輩へ継承していく〝つながり〟の精神。その姿勢が、選手はもちろん、彼らを支えるスタッフたちにもしっかり浸透しているからこそ、生まれた言葉です。

この日、練習場での撮影に集まったのは、学生コーチや主務、学生レフリー&分析、女子マネージャーなど、チームの裏方と呼ばれるポジションのメンバーたち。選手たちの誰もが、彼らへの心からの感謝を口にする大切な仲間たちです。選手を兼任する渡辺郷さんは、4年生になってチームの指導役である学生コーチに選ばれました。「選手としてプレーしながら、同じ目線でアドバイスするのが特徴です。相手に押されている試合のとき、チームの雰囲気を良くするため意識的に声を掛け、流れを引き寄せることもあります」。全146名の大所帯で、監督の意思を選手たちに伝えるという役割も。

学生レフリー&分析という聞きなれないポジションを担当する須藤惇さんは、高校時代は選手でしたが、大学では自ら志願してこの道を選んだとか。「僕は身体が小さかったので、ルールを学び戦術で勝つことに注力していました。レフリーに興味を持ったのも自然な流れだったんです」。試合や練習の映像を、選手が研究しやすいように編集する分析の仕事も行います。最近は、選手以外のポジションを重視するのがトップリーグチームの常識になりつつあり、卒業後はラグビーに関わる就職が決定しているそうです。

「選手たちと同じ目標に向かって一緒に過ごす時間が、自分にとって誇りです」と話すのは女子マネージャーの田脇美春さん。グラウンドでのドリンク管理やメンバー表作り、さまざまな事務作業を一手に担います。スタジアムで共有したV4の瞬間は、心の底から嬉しかったそう。「一緒にいて、選手たちが劇的に変化する瞬間があるんです。そこに立ち会えると喜びを感じます」。

話を聞いたのは、みんなこの春に卒業する4年生。チームは既に次年度の準備段階に入っていましたが、彼らの熱いDNAは後輩につながり、しっかり生かされていくに違いありません。

feel TEIKYO

あなたにつながる帝京大学　撮影・加瀬健太郎

TEIKYO
帝京大学 本部広報課
TEL.03-3964-4162
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1

帝京大学をもっと感じるマガジンをお届けします
帝京大学のあれこれを充実のコンテンツで紹介する冊子『feel TEIKYO』を配布中。
冊子請求先 → post@med.teikyo-u.ac.jp（本部 広報課）
スペシャルサイト→ www.feelteikyo.com